

事務事業評価表 平成22年度

政策 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実  
 施策 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造  
 基本事業 文化・歴史遺産の保存と継承

事業名 **史跡ガイドブック作成事業**

[0489]

部名	教育部	事業開始年度	平成12年度	実施計画事業認定	非対象
課名	郷土資料館	事業終了年度	平成21年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
<p>対象</p> <p>(誰、何に対して事業を行うのか) 市民</p>	<p>手段</p> <p>(事務事業の内容、やり方、手段) 1. 江別に関わる史跡等、自然、人物、建造物等についてこれまでに蓄積された調査結果を基に、市民が市内を散策しながら江別の歴史や風土を学べるガイドブックを作成する。 2. 本書執筆者による編集会議を組織し、調査、資料収集、構成、執筆を経て、印刷刊行する。 3. 全5巻シリーズとし、平成12年度より隔年刊行、平成21年度に事業完了予定。</p>
<p>意図</p> <p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 郷土の歴史・風土に興味を持ち、正しく理解してもらう</p>	

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	市民	人	123,537	123,054	122,568	
対象指標2						
活動指標1	編集会議等開催回数	回	0	2	3	
活動指標2	発行部数	部数	1,000	0	1,000	
成果指標1	販売部数	部数	800	271	159	
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	1,183	44	1,485	0
正職員人件費 (B)		千円	4,187	4,179	5,809	0
総事業費 (A) + (B)		千円	5,370	4,223	7,294	0

費用内訳	
21年度	委託料 1,485千円

## 事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	業務開始時は郷土資料館事業として企画立案。組織改変後現行担当となり再改変後また資料館担当となる。当初は、郷土資料館事業及び学校教育事業のテキスト的位置づけとしていたが、第1巻刊行後、市民の反響が大きく対象を拡大した。また、平成14年度に刊行した2巻目や19年度刊行の4巻目の販売数も順調であり、江別の歴史や風土に対する市民の知識欲は高くなっているといえる。
--------	--	-------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・  
根拠は？

文化財等の歴史遺産を市民に公開、活用していくことは行政の責務である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・  
根拠は？

江別の歴史や風土を正しく理解する教材として果たす役割は大きい。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・  
根拠は？

販売が順調であることから市民の関心も高く、江別の歴史に対し大いに興味をもって活用されている。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・  
根拠は？

編集などガイドブックの内容に工夫を凝らし、読みやすい本を作成する。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・  
根拠は？

販売金の収入を事業へ充当する。また、販売金額を見直す。既刊本は、増刷分のみ経費となるので、コスト減となる。